

日本学術振興会拠点形成事業 シンポジウム開催報告

2013年12月5日(木)・6日(金) 同志社大学 京田辺キャンパス 医心館

拠点形成事業の海外側拠点の研究室の若手研究者および博士課程の大学院生と、日本側の若手研究者が同志社大学京田辺キャンパスにおいて、それぞれの最新のシナプス研究の口頭発表を2日間に分けて行った。事業担当者以外に松井広氏(東北大学准教授)を招き、口頭発表をお願いした。昨年同様、比較的少人数での会合であったため、各研究室の未発表データを含め深い議論をすることができた。30人から40人程度の聴衆の中、1人当たり30分程度のトークに対して10-15分程度の質疑応答を行うことで、シナプス研究における課題を深く掘り下げるといった目的が大いに達成された。また、若手研究者に国際的な会合での研究発表を経験させるという目的においても、大変有意義なシンポジウムであった。一方、ポスター発表(合計12件)では、本事業に参加していない脳科学研究科の研究室による発表(大学院生による発表も含む)も行われ、脳科学研究科全体の研究を海外側の研究者に発信する機会にもなった。さらに懇談会を設定することで、研究に関してよりオープンに議論する場を設け、若手研究者同士の親密なつながりを形成するとともに、今後の共同研究の可能性も模索された。全体を通して、本事業の実践力ともいえる若手研究者同士がじかに連帯を強めたことが、最大の成果であろう。実際に、若手研究者による提案で共同研究が生まれていくことを期待したい。

口演者 (敬称略)

海外側: Federico Trigo (Univ. Paris 5), Camila Pulido (Univ. Paris 5), Javier Zorrilla de San Martin (Univ. Paris5), Christian Vogl (Univ. Gettingen), Igor Delvendahl (Univ. Leipzig), Arndt Pechstein (FU Berlin / FMP), Kwun-nok Mimi Man (Max Planck institute)

日本側: 松井広(東北大)、Thomas Chater(理研 BSI)、篠江徹(理研 BSI)、江口工学(OISTO)、川口真也(同志社大)、緑川光春(同志社大)、堀哲也(同志社大)、三木崇史(同志社大)、江頭良明(同志社大)